FFGビジネスコンサルティングの

ちょっと釣り道（つりみち）

［水郷・柳川編］

2

3

1

①遥か佐賀・長崎の山々を望む筆者　②まだ小さいナマズくん　③これが話題の外来魚、ブラックバス

本日の釣り道は水郷・柳川にてナマズを釣る

筑後平野と佐賀平野を流れる河川は、有明海沿岸部に地域特有の干潟を形成し、ここにしか生息しない多様な珍しい生物を育んでいます。

人々は、注ぎ込む川の流れを少しでも暮らす地域に留め潤そうと灌漑を行い、農業用水を整備し、掘割を網の目の様に張り巡らしました。その名残がクリークとなり、柳川周辺は水郷と呼ばれてきました。

この地から、四方を眺めると西には普賢岳や太良岳、北西には背振山地や天山を望み、夕陽が麦の穂を照らします。いにしえびとも同じ景色を見ていたのでしょう。有明海沿岸に生息する、むつごろうや、ワラスボ、エツなどの固有種は有名ですが、それらのクリークには、実は日本古来の生物以外にも、外国からの外来生物が狭い水路の中に、たくさんひしめきあっています。

アメリカザリガニやジャンボタニシ、アカミミガメ、ブルーギルの他、問題とされているブラックバスや、ソウギョ・レンギョやドイツ鯉などの大型の魚類もいます。

取引先からの帰り道、うなぎの蒲焼の香ばしい香りに誘われた筆者は、水路のほとりを歩いていました。穏やかな水面の中のそんないきもの達の顔を見てみたくなりました。

筆者は、様子見に金属片の疑似餌（スプーン）を取り出し、堰の下側に放りました。すると手元に〝ドンッ！〟と衝撃が来てさおが弓なりに絞り込まれます。数分の格闘の後、黒い魚体が現れました。

見るとビミョーに小さい30㎝くらいのナマズくん（笑）大物は畏怖さえ感じる風体のナマズですが、コヤツはまだ小さく幼げでとぼけた風貌です。一瞬、蒲焼が脳裏に浮かびましたが、こいつも獰猛な外来生物達とのサバイバルを逞しく生き残ってんだなと、少し励まされた気分になり、「おまえも頑張んな！おれも頑張るよ（泣）」って声をかけてしまいました。